

2020年8月27日

各位

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1  
オンコセラピー・サイエンス株式会社  
代表取締役社長 朴 在賢  
(コード番号 4564 東証マザーズ)  
(問い合わせ先) 管理本部長 木村 謙二  
電話番号 044-820-8251

当社連結子会社におけるリキッドバイオプシーに関連する論文公表のお知らせ

当社連結子会社である株式会社 Cancer Precision Medicine (以下、CPM 社) は IMS (イムス) グループの医療法人社団明芳会 (本部 東京都板橋区、理事長 中村哲也)、医療法人財団明理会 (所在地 東京都板橋区、理事長 中村哲也) 及び株式会社アイル (本社 東京都板橋区、代表取締役社長 山崎徹也) と、リキッドバイオプシーによる大腸がん及び胃がんの手術後のがん細胞の残存、再発の早期発見法の検討にかかる共同研究を行っております。この度、その成果をまとめた論文が Oncotarget 誌に掲載されましたので、その概要をお知らせいたします。

[\(https://www.oncotarget.com/article/27682/text/\)](https://www.oncotarget.com/article/27682/text/)

#### 【概要】

本共同研究において、154 例の大腸がん及び 46 例の胃がん患者さんの血漿サンプルを用いて、循環腫瘍 DNA (circulating tumor DNA: ctDNA) の遺伝子変異を調べました。その結果、(1) 次世代シーケンサーと遺伝子パネル解析による手術前血漿サンプルの ctDNA の検出率は 72.0% であり、大腸がん及び胃がん患者さんからそれぞれ 207 及び 47 の遺伝子変異が特定されました。(2) 77 例の手術後の血漿サンプルを用いてデジタル PCR 解析を行ったところ、手術後にがんが再発した 6 例の患者さんすべてにおいて、画像診断よりも早く ctDNA が検出されました。(3) 手術直後に ctDNA が検出された患者は、検出されなかった患者さんと比較して、無再発生存期間が有意に短いことが明らかになりました。

これらの結果は、リキッドバイオプシーによって、手術後の再発リスクが高い患者さんを特定できること、さらに、経時的に治療後のモニタリングを行うことで、がん再発の早期発見が可能であることを示唆するものです。

なお、本件による当社業績への影響は軽微であります。

以上